

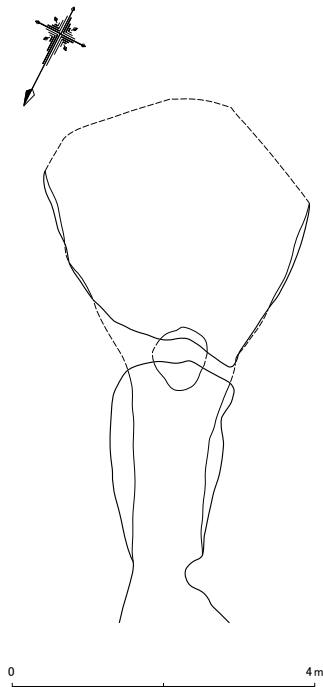
III. 刊行報告書抄録

第163集 K-G-93号窯跡

K-G-93号窯跡は、みよし市の北部、福谷町に位置し、境川とその支流である小石川に挟まれた標高88mの丘陵上に立地している。発掘調査は県道豊田知立線の建設にともなう事前調査として、750㎡を平成18年9月から12月にかけて実施した。また、本書作成にかかる整理作業は、1次整理を平成18年度に、2次整理を平成20年度に実施した。調査の結果、窯体(SY01)は焼成室の上半分を削平されていたが、焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好で、窯内及び前庭部から、焼成後の選別作業で廃棄された山茶碗や小皿の破片が22,000点以上出土した。これらはすべて第6型式の尾張型山茶碗であり、その中で底部が1/2以上残存するものは、山茶碗734点、小皿422点を数え、小皿の割合が高いのが特徴である。他に頂部に摘みが付く蓋が4個体分出土した。

また、当初SY01の灰原を想定していた谷状地形からは、山茶碗・小皿・羽釜・鍋に混ざって近現代の磁器が出土し、SY01の灰原でないことが判明した。ここから出土した山茶碗と小皿の中には第5型式の特徴を残すものがあり、SY01の焼成回数は2回程度と考えられることから、付近にこれらを焼成した別の窯体が存在した可能性が高い。さらに、羽釜や鍋も赤褐色の焼台が出土していることから、付近で焼成されたと考えられるが、主に知多窯で焼成された羽釜・鍋が猿投窯で出土したことは、猿投窯と知多窯との技術交流を考える上で参考になる資料を一つ加えることとなった。

(宇佐見 守)



窯(SY01)実測図



出土遺物



出土遺物

報告書抄録

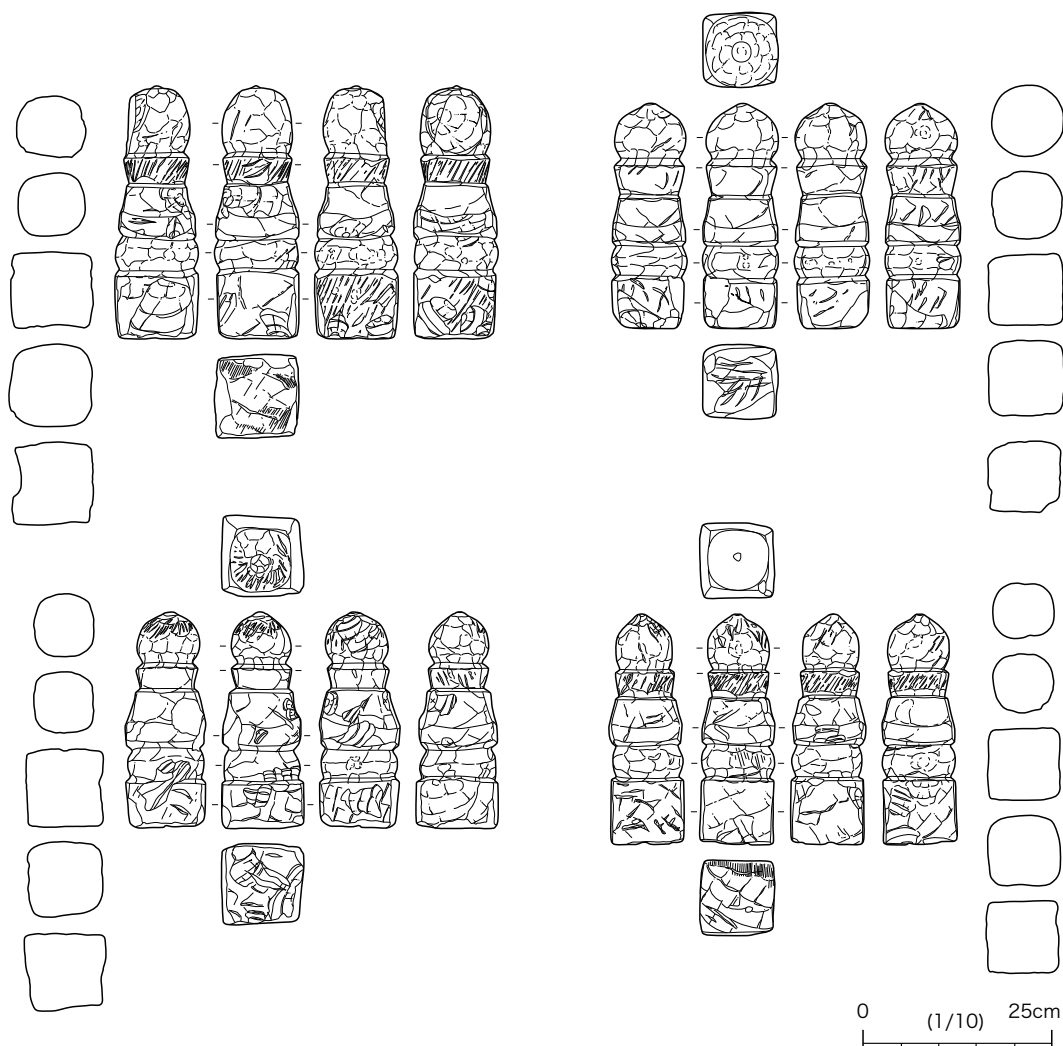
ふりがな		けーじー93ごうかまあと						
書 名		K-G-93号窯跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第163集						
編著者名		宇佐見守 藤根久 小林克也 伊藤茂 丹生越子 廣田正史 瀬谷薫 小林紘一 Zaur Lomtadize Ineza Jorjoliani 竹原弘展						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2010年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
けーじー93ごうかまあと K-G-93号窯跡	あいちけん みよし し 愛知県みよし市 うきかいちょう 福谷町	23521	640164	35度 07分 12秒	137度 06分 05秒	2006.09.26～ 2006.12.07	750㎡	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
K-G-93号窯跡	古窯跡	鎌倉時代	窯体		山茶碗・ 陶製羽釜		陶製羽釜の出土	
文書番号		発掘届出(18埋セ第25号・2006.7.4) 通知(18教生第906号・2006.7.26) 終了届・保管証・発見届(18埋セ第75号・2006.12.19) 鑑定結果通知(18教生第2303号・2007.1.25)						
要約	窯体(SY01)は焼成室の半分から上を削平されていたが、焚口から分焰柱にかけての残存状況は良好で、窯内や前庭部から焼成後の選別作業で廃棄された尾張型第6型式の山茶碗・小皿が多数出土した。当初灰原を想定していた谷状地形からは、山茶碗・小皿・羽釜・鍋などが出土したが、第5型式の特徴を残す山茶碗・小皿が含まれ、付近にこれらを焼成した窯体が別に存在した可能性が高い。 また、知多窯で主に焼成された羽釜が猿投窯で出土したことは、知多窯との技術交流を考える上で参考になるものを一つ加えることとなった。							

第166集 羽根遺跡

羽根遺跡の調査は、県道大代音羽線改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じての委託事業として本センターが平成 20 年 4 月から平成 20 年 9 月にかけて実施したもので、調査面積は 4,100 m²である。全体を A・B・C・D・E の 5 調査区に分けて調査を行った。遺跡は、豊川市萩町羽根に所在し、山陰川に向かって傾斜をする丘陵北側斜面の裾部に北東から南西に約 200m の範囲で広がり、標高は 70 ～ 80m を測る。

調査の結果、戦国時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認された。遺構は屋敷地を区画する溝や井戸・柱穴等が検出されている。遺物では、瀬戸・美濃窯産陶器・土師器・常滑窯産陶器等の他に、15 世紀後半から 16 世紀の墓域に伴うと思われる一石五輪塔等の石塔類が多く出土しており、報告書作成にあたってはこうした石塔類をできる限り図化し掲載した。

(成瀬 友弘)



出土遺物実測図

報告書抄録

ふりがな		はねいせき						
書 名		羽根遺跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第166集						
編著者名		成瀬友弘、川添和暁、鬼頭剛、株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ						
編集機関		財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161						
発行年月日		西暦 2010年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
はねいせき 羽根遺跡	あいちけん とよかわし 愛知県豊川市 はぎちょう 萩町	23207	820042	34度 52分 10秒	137度 19分 39秒	2009.04.23～ 2009.09.01	4,100㎡	道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
羽根遺跡	集落	戦国時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、 溝、石組み、石垣、 井戸、土坑等		土師器(皿・鍋)、 瀬戸美濃窯産陶器、 石塔・石器、銭貨、 金属製品、木製品等		石塔類の集中廃棄	
文書番号		発掘届出(19埋セ第117号・第118号・2008.3.12) 通知(19教生第2987号・2008.3.25) 終了届・保管証・発見届(20埋セ第65号・2008.9.1)						
要約	本遺跡は、山陰川東岸の丘陵端部に立地している。調査では主に戦国時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認された。当該期には墓域や屋敷地などが展開していることが判明した。屋敷地は、斜面に地山の削平と盛り土等で整地して平場を築いており、それぞれを溝で区画している。溝は部分的に石組みや暗渠をもったものも確認されている。今調査で当該地域の近世の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えられる。							

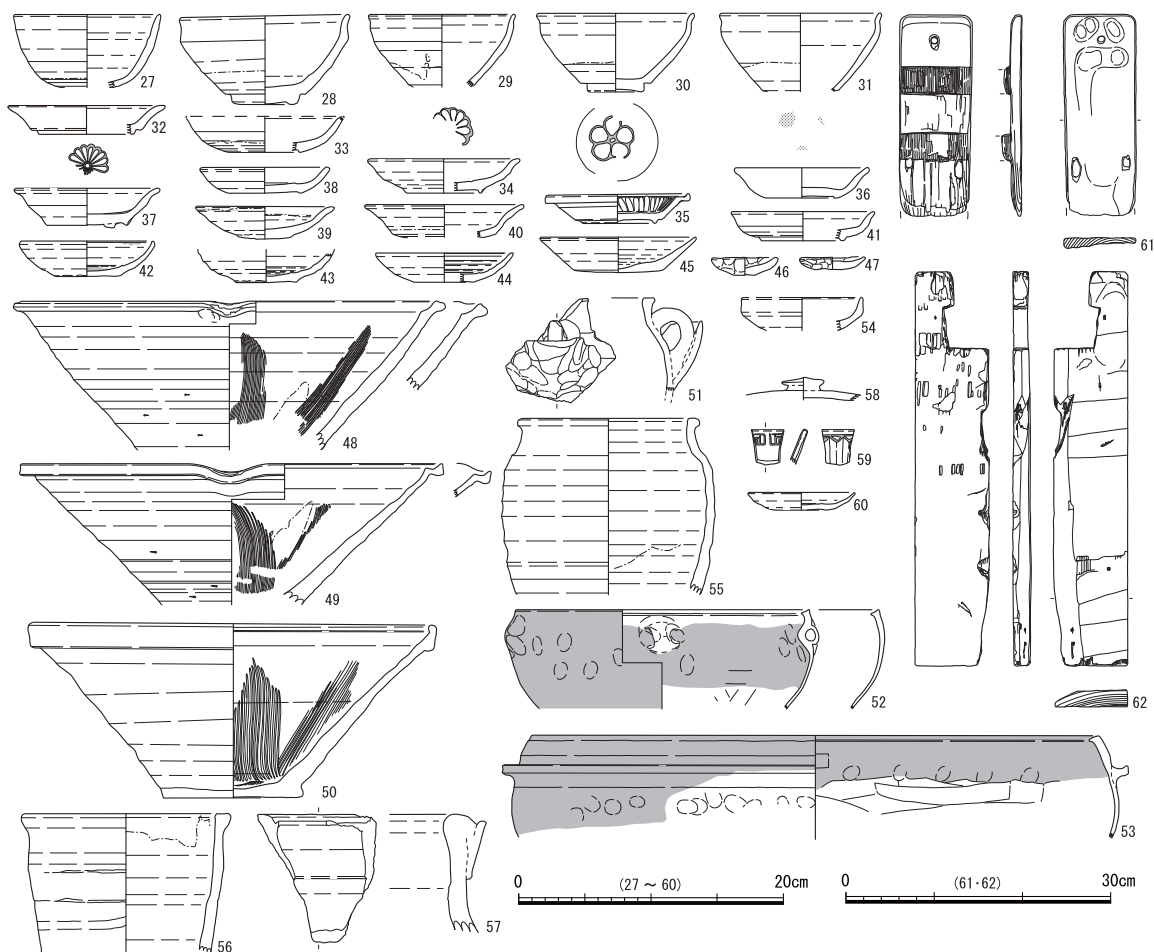
堀尾氏邸宅跡

堀尾氏邸宅跡は、丹羽郡大口町堀尾跡1丁目に位置する。発掘調査は、緊急地方道路整備事業小口岩倉線建設工事に伴い、平成21年6月から11月まで実施された。整理と報告書作成作業および報告書刊行は平成21年度に行った。

今回の調査区東方に堀尾氏の邸宅跡が比定されている。発掘調査の結果、戦国時代から明治時代までを中心とする遺構や遺物が確認された。戦国時代から江戸時代初期の遺構・遺物はちょうど堀尾吉晴・忠氏・忠晴が活躍した時期に符合する。一方、江戸時代後期から明治時代前半の遺構・遺物は現在まで宅地が存在する屋敷地の一角と推定される。

戦国時代は幅5mにおよぶ大溝とその北側に展開する小区画の溝や150基近くの柱穴によって構成されている。堀尾氏邸宅跡は戦国時代の城館跡の可能性が高くなった。江戸後期以降の遺構は『明治17年地籍図』に記載された地割りと一致する箇所が確認された。遺構から出土した資料の多くは、瓦と陶磁器類の特徴から明治時代前半におさまる資料であることがわかった。明治24年10月28日、この地域を襲った濃尾地震で破損して廃棄した資料群と想定される。そのほか、隣接する東屋敷古墳など古墳時代後期に関連する耳環や須恵器、縄文土器、弥生土器なども出土している。

(永井宏幸)



堀尾氏邸宅跡501SD出土遺物実測図

報告書抄録

ふりがな		ほりおしていたくあと						
書 名		堀尾氏邸宅跡						
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名		野口哲也 永井宏幸 鬼頭剛 片山博道						
編集機関		愛知県教育委員会 財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 国際文化財株式会社						
所在地		〒460-8534 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1-2 TEL052(961)2111 愛知県教育委員会 〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161 財団法人愛知県教育スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター 〒452-0901 愛知県清須市阿原神門95-1 TEL052(408)0245 国際文化財株式会社西日本支店						
発行年月日		西暦 2010年 3月 31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
ほりおしていたくあと 堀尾氏邸宅跡	あいち けん に わぐん 愛知県丹羽郡 おおぐちちょうほりおせき 大口町堀尾跡 ちょうめ ぼんち 1丁目88番地ほか	233617	233002	35度 19分 4秒	136度 53分 16秒	2009.07.10～ 2009.12.01	1,950㎡	県道小口 岩倉線建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
堀尾氏邸宅跡	集落	縄文時代 弥生時代 古墳時代 鎌倉時代 ～室町時代 戦国時代 ～江戸時代 江戸時代 ～明治時代	土坑・溝 掘立柱建物・ 土坑・溝・堀 礎石建物・土坑・ 区画溝		縄文土器 弥生土器・石鏃 須恵器・土師器・耳環 山茶碗・皿 陶器・土師質土器・ 土錘・木製品 陶磁器・土師質土器・ 瓦・石製品・鉄滓・ 轆の羽口		戦国時代の城館 庄屋屋敷の区画溝 鍛冶関連遺構・遺物	
文書番号		発掘届出(21埋セ第128号・2009.6.5) 通知(21教生第527号・2009.6.12) 終了届・保管証・発見届(21埋セ第89号・2009.12.3) 鑑定結果通知(21教生第2173号・2010.1.20)						
要約	今回の調査は、戦国時代から江戸時代初期と江戸時代後期から明治時代前半期を中心とする遺構・遺物が確認された。前者については、戦国時代の城館を想起させる大溝と区画溝などを確認した。堀尾氏に関連する時期として注目される。後者については、屋敷地の区画溝から出土した瓦や陶磁器類の時期から、明治 24（1981）年に発生した濃尾地震後、廃棄された資料群と考えられる。そのほか縄文土器や弥生土器を含め、隣接する後期古墳に関連する耳環なども出土した。							

